

発行所: 株式会社帝国データバンク

神戸支店 〒650-0024 神戸市中央区海岸通3-1-13
姫路支店 〒670-8554 姫路市北条口2-7
福知山支店 〒620-0055 福知山市篠尾新町1-77-1
鳥取支店 〒680-0846 鳥取市扇町115番地1
大阪支社 〒550-8691 大阪市西区靱本町1-6-18
(本 社) 〒107-8680 東京都港区南青山2-5-20

TEL:078-331-7024 (代)
TEL:079-224-1492 (代)
TEL:0773-23-3875 (代)
TEL:0857-23-5231 (代)
TEL:06-6443-5601 (大代表)
TEL:03-5775-3000 (大代表) URL:http://www.tdb.co.jp/

購読料: 1年間52,500円(本体50,000円) 複写転載厳禁 ©TEIKOKU DATABANK,LTD.



TDB TEIKOKU NEWS weekly

週刊 帝国ニュース 兵庫県版

NO.1036 2013

10/28
mon.

最新ニュースはここにアクセス

<http://www.tdb-news.com/>

CONTENTS

- 03 社労士ゴトーの人事労務セミナー
第15回 ~労働トラブル防止編~
未払い残業代請求・長時間労働問題から会社を守る⑤
後藤博章経営労務管理事務所 特定社会保険労務士 後藤 博章
- 04 TDB景気動向調査: 特別企画
法人課税の実効税率に対する企業の意識調査
法人実効税率、企業の3社に2社が「引き下げるべき」
- 08 TOPICS
**農業と外食産業の経営安定化を図る
ユニークな取り組み**
- 09 ZOOM IN 乙仲通
大松産業株式会社
~歴史と伝統が刻まれた名門コースで
最上級のサービスを~
- 10 TDBまなび場
第21回 パクリ屋
- 12 兵庫県 公共工事動向 2013年9月
- 13 入札結果報告 兵庫県 発注工事
- 14 新設会社紹介
- 16 倒産・動向記事 X-LINE

主な債権者判明

株カワノプラスチック	[プラスチック製品製造]	(兵庫)
株伊藤タイル店	[タイル工事]	(兵庫)
株啓明電装	[看板・標識機製造]	(大阪)
株キタイ	[食品スーパー経営]	(大阪)
株ジュノス	[婦人服卸]	(大阪)
津田ホールディングス(株)	[家具卸]	(福岡)
株ジャパンクレス	[貸金業]	(沖縄)
株REジャパン (旧:株東北医療器械)	[エステ事業]	(宮城)
梅本株	[子供服卸]	(岐阜)
株ザフットワーク	[靴小売]	(愛知)
株ケービーケーフーズ	[水煮製品製造、販売]	(高知)
株すぎうら	[漬物製造]	(静岡)
株拓志企画	[ポストインサービス]	(東京)
有泰尚	[そば店経営]	(東京)

- 21 全国の倒産ダイジェスト
全国の債権者名簿入手状況
- 22 神戸商工会議所主催
みんなでチャレンジ! 神戸学検定
- 23 ジュンク堂書店 三宮店 ベストセラーズ
- 24 DATA FILE
- 26 最新調査レポート通信



日本一の酒米 山田錦(三木市)

トピックス Topics

農業と外食産業の経営安定化を図る ユニークな取り組み

野菜の卸を入り口に、農産物の生産・流通から障がい者雇用を創出し、地域活性化を図る取り組みが軌道に乗っている。

仕掛け人は、神戸市東灘区・東部市場内の(株)ジェイク・サポート&サプライ(以下、ジェイク社)。その取り組みは異彩を放っている。

(神戸支店情報部 牧 秀樹)

入り口は“ネギ”

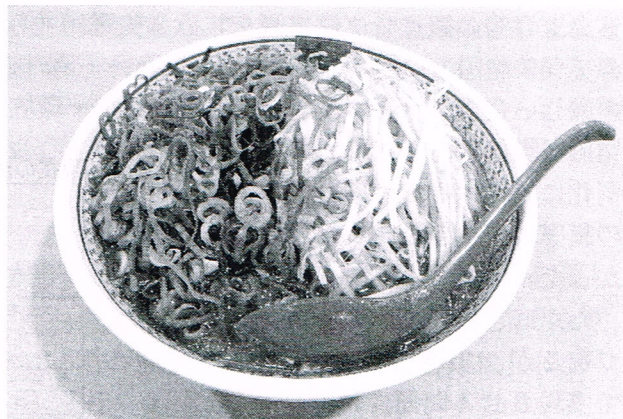
「ネギのお陰です」と語るのはジェイク社の太田收社長。ネギは、ラーメンなどの麺類や鍋物など料理に欠かせない名脇役。こだわりの店ともなれば「風味が良い国産品、肉厚で甘みがあるネギを」とのオーダーもあり、それに応えるべく品種を決め、全国各地の農家に生産を委託する。そして出荷時には荷姿を整え、安定供給して実績を重ねることで信頼を高めていった。今や大手うどんチェーン店や有名ラーメン店へ供給先は広がっている。

この間、2012年3月には、無農薬野菜生産の第一人者である小倉幸生氏を招へいし、宮崎県小林市に農業生産法人の(株)生駒を設立。既存取引先とはネギを入り口にして他の野菜へ広がり、さらに納入店舗数増で取引量アップ、モノが良いので新規取引先を紹介されるなど、取扱い量はここ1年で倍増。(株)生駒の生産高も当然ながら増えていった。

種まきから口に入るまでを安定

野菜の出荷を担っているのは、社会福祉法人陽気会(神戸市北区)の作業所、サニーサイド宮崎(宮崎県小林市)とサニーサイド神戸(神戸市北区)の障がい者。生駒や提携農場で生産した野菜のピッキングや箱詰などの選果・集出荷作業を行っているのだ。「ハンデを背負いながらも、一生懸命に取り組む姿勢に学ぶことは多い」と太田社長の思いは熱い。

ジェイク社、生駒の事業が順調ゆえ、確実に仕事があるとの評判から就労を希望する障がい者の面接は多い。「それだけ笑顔の数も増えているのです」と太田社長も笑顔で語る。今年8月には、サニーサイド宮崎に第2選別所を開設、当初募集した定員を上回る50名以上の雇用を創



どうとんぼり神座の「おいしいラーメン」ジェイク社の野菜がこだわりの味を引き立てる

出している。とはいえ、障がい者就労の賃金は平均で月額19000円程度。「既に全国にある同様の就労支援施設の平均賃金より高い賃金を支払えるようになったが、近い将来には国が定める最低賃金にまで引き上げることが目標」だ。

こうした強い使命感を持ち、社会貢献を持続していくためにも、農業経営の安定化は欠かせない。そのために「定量、定価、定質、定時」をキーワードに掲げて、安全・安心な品質の良い野菜を安定価格で安定数量を供給するために汗を流す。さらに、還元型農業にも取り組んでいる。生駒では、野菜の集出荷時に発生する食品残渣を堆肥にすることで、産業廃棄物を出さない取り組みもスタートした。処理費用が不要となるだけでなく、製造した堆肥は自然界に存在する原料だけを使った“有機完熟堆肥”として、おいしい野菜作りに使用する。「まず我々が安心して食べられることが条件。お客様には本当に良い野菜のお裾分けの気持ちで提供したい。生駒で採れた野菜は本当に甘い。それまで野菜が苦手な子供も好きになるほど」(同氏)という。この野菜の味を知った商社は、ジェイク社が扱う野菜を“鉄板”として飲食店に紹介するのも自然の流れ。

種まきから口に入るまでを一本の線で結ぶ当社の取り組みは、まさに政府が推進する農商工連携による6次産業化そのもの。「仲間は増えてきた」と太田社長、産地を作り、地域活性化を図る取り組みは徐々に根付いている。